

2017年9月20日付け公開質問状「鎌倉市における図書館行政のあり方について」
＜石田ともつぐさんのご回答＞ 2017.9.30

1. 鎌倉市の文化・教育行政において図書館が担っている基本的な役割とは何であるとお考えになりますか。

本は文化・教育の根本であり、図書館はそれを支える土台と考えます。

2. 鎌倉市の図書館には5年単位のサービス計画はありますが、長期的な視野に立ったビジョンは確立されていません。昨年、当会では目指すべき鎌倉の将来像（ビジョン）の確立を求めて議会に陳情し採択されましたが（添付資料参照）、このことについてどうお考えでしょうか。

大賛成です。

3. 市の図書館は他の同規模自治体と比較して、貸出密度（市の人口と貸出冊数の比）、予約処理件数、レファレンス件数などサービス面の数値は高いのですが、他方で資料購入費が低水準にあり、司書の新規採用が20年以上されておらず、施設の狭隘化・老朽化も進んでいるなどの問題を抱えています。図書館に関して現在求められている具体的な施策はどのようなものとお考えになりますか。

新司書を正規職員として雇うべき。

鎌倉の特長は「文化」なのだから、文化の土台である図書館の予算は削るべきではない。

老朽化したとしても、蔵書・内容の充実を目指すべき。

図書館は、見た目ではなく、中身である。

と考えます。

4. 昨今、図書館の管理運営について指定管理者制度の導入が広がりつつありますが、これについてどうお考えですか。あわせて、図書館が市の公共施設再編計画のなかに位置づけられていますが、これについてもお考えがあればお聞かせください。

図書館を指定管理者制度に委ねるのは、基本的には賛成しない。

(特に、ツタヤ図書館)

ただ、武蔵野プレイス(東京都武蔵野市)のようにうまくいっているものもあるようなので、全く排除するわけではない。

今後検討したい。

図書館は縮小することなく、むしろ拡大すべきと考えます。

5. 市の図書館は5館構想により各行政区に計画的に配置され、今のところ直営は維持されていますが、4つある地域図書館のうち玉縄、腰越の図書館を嘱託職員中心の運営体制に変えられようとしています(図書館ホームページの図書館協議会答申、付帯意見、意見書等参照 <https://lib.city.kamakura.kanagawa.jp/associ.html>)。これについてどうお考えになりますか。

許し難いです。

現市長は、図書館に対して冷淡すぎる。

これでは文化都市鎌倉はなりたたない。